



1 歴史文化の要素

宮古市の概要（第2章）や文化財等の概要（第3章）から、本市の歴史文化の主なトピック（題材）を、社会的環境、自然環境、歴史の変遷、現代の暮らしと文化によって、表4-1のように整理しました。

表4-1 歴史文化のトピック

項 目		トピック
社会的環境		・岩手県沿岸部の中核都市 ・産業と文化の玄関口となった宮古港 ・多様な海産物の宝庫（サケ・サンマ・鱈・毛ガニ・ワカメ・昆布） ・豊かな山林資源（桧葉・木炭・合板）
自然環境		・浄土ヶ浜に代表される三陸海岸の景勝 ・早池峰山を中核とする自然と希少生物 ・宮古層群の化石と地質
歴史の変遷	縄文	・崎山貝塚や近内中村遺跡に代表される豊かな縄文文化（縄文土器・骨角器・石器・土偶・装飾品）
	古代・中世	・須賀君古麻比留と郡家（長根古墳群や津軽石大森遺跡） ・古代鉄生産 ・中世土豪の城館による集落の形成 ・名馬による室町幕府との交流 ・禅宗文化の流入と権現信仰
	近世（江戸）	・江戸との交易による港町の発展 ・鮪大網など漁業技術の開発 ・盛合家や東屋などの商人が活躍 ・港と城下を結ぶ閉伊街道 ・早池峰山麓の木材と養蚕 ・幕末の海岸防備と宮古港海戦
	近現代（明治・大正・昭和）	・港湾の整備と海運の発達 ・宮古街道と国鉄山田線の整備 ・サンマ・北洋サケマスの漁業基地 ・津波災害からの復興と記憶伝承 ・田老鉱山と銅精錬工業
暮らしと文化（民俗）		・山里の暮らしを支えた生産道具と民具 ・縄文時代から育まれた漁労技術 ・山岳信仰と漁業信仰を基層とする祭礼と芸能

また、宮古市総合計画（前期基本計画）では、本市の将来像として『森・川・海』とひとが調和し共生する安らぎのまち」を掲げています。本市の特性である豊かな自然とひとが調和し共生することにより、これらを積極的に生かしながら、私たちが、心の豊かさやゆとりを実感し、自らの個性と能力を発揮していくことのできるまちづくりを進めていこうとする考え方を示すものです。

宮古市の将来像

「森・川・海」とひとが調和し共生する安らぎのまち

「森・川・海」は、本市をとりまく豊かな自然環境、自然の恵みを表しており、具体的には次のとおりです。

「森・川・海」の自然環境

【森】早池峰山を代表とする北上山地

【川】閉伊川とその支流

【海】浄土ヶ浜を代表とする宮古湾と三陸海岸

本市は北上山地に位置し、その最高峰である早池峰山など豊かな森林資源に恵まれ、北上山地の山々を源とする閉伊川とその支流に集落が形成されてきました。そして、浄土ヶ浜に代表される名勝地、宮古湾と太平洋から

なる三陸海岸の水産資源に恵まれて、生活を営んできました。私たちの先人の歴史文化は、「森・川・海」の3つのステージに展開されてきたと言えます。図4-1では、「森・川・海」のステージ上に、歴史文化の主要な要素を整理しました。

ステージ 分野・時代		森	川	海
自然		北上山地と三陸海岸の地質・景観		
		早池峰山と高山植物		宮古層群と化石
歴史的変遷	縄文時代		刈屋清水野遺跡 近内中村遺跡 日の出町Ⅱ遺跡 震帯遺跡 磯鶏蝦夷森貝塚 菅ノ沢遺跡	崎山貝塚 越田松長根Ⅰ遺跡 千鶏遺跡 大付遺跡
	古代		長根古墳群	
	奈良		鉄生産遺跡	昆布
	平安		津軽石大森遺跡 田鎖車堂前遺跡	
	中世	権現信仰と禅宗文化		
	鎌倉	城館跡		
	室町			
	戦国			
	江戸（前期）	金山		港町の発達 盛合家・東屋 宮古港海戦 海岸防備 海産物 鮭・鮪・鰯・鰯・鰯 津波 津波 サンマ船
	江戸（中期）	五十集の道と鞭牛の道路改修		
民俗	江戸（後期）	鉄山		
	江戸（幕末）	早池峰山の松・北上山地の木材		
	明治	養蚕		
	大正	県道宮古港線		
	昭和（戦前）	木炭	鉢田老	
	昭和（戦後）		洪水・大火	
民俗		漁村と山里の暮らし、技術		
		早池峰神楽	祭礼と芸能	黒森神楽

図4-1 歴史文化の主要な要素整理図

2 歴史文化の特性

図4-1の項目に関連するテーマごとに分類し、本市の歴史文化について、5つの特性を抽出しました。さらに歴史文化の特性を包括するキーワードとして「北上山地と三陸海岸に育まれた森・川・海の歴史文化」と捉えました。

表4-2 本市の歴史文化の特性

～北上山地と三陸海岸に育まれた森・川・海の歴史文化～	
特性1：	森・川・海の自然・景観と災害
特性2：	森・川・海の恵みと共生する縄文文化
特性3：	鉄と城館による地域の形成
特性4：	宮古港と街道による地域の発展
特性5：	森・川・海の暮らしと祈り

（1）森・川・海の自然・景観と災害

北上山地と三陸海岸を擁する本市は、海拔0mの海から北上山地の最高峰早池峰山（標高1,917m）まで、森・川・海の多様な自然に恵まれています。早池峰山はハヤチネウスユキソウをはじめとする希少な高山植物の宝庫で、「花の百名山」にも選定されている名山です。一方、本市の沿岸は、1億3千万年前の火山活動で形成された硬い岩石と花崗岩で形成され、北部の切り立った断崖と南部のリアス海岸の景勝を作り出しました。地質学的に貴重な約1億1千万年前の「宮古層群」に関連する天然記念物では、「三王岩」（県指定）、「崎山の潮吹穴」（国指定）などが知られています。また、三陸復興国立公園の中核をなす浄土ヶ浜の白い岩は、4千4百万年前にできた流紋岩が侵食されてできた景観です。

大地の地殻運動が希少な自然や景観を生み出す一方で、我々人間に災害となって襲いかかる時もあります。三陸沿岸は、1896（明治29）年と1933（昭和8）年の三陸地震津波を経て「津波の常襲地帯」と言われました。さらに2011（平成23）年の東日本大震災は、未曾有の津波災害となりました。沿岸部には明治からの津波碑が数多く建立され、津波の教訓を伝える「学ぶ防災」が学習活動などにも活用されています。

このように、北上山地と三陸海岸を結ぶ本市は、美しい景勝と地質学的貴重性、希少な自然、災害の伝承を一体として体験学習が可能な環境にあるといえます。



国・県指定 浄土ヶ浜



早池峰山



市指定 チョウセンアカシジミ

(2) 森・川・海の恵みと共生する縄文文化

本市の縄文遺跡は、『岩手県遺跡台帳』では488遺跡を数え、市内各所の畑地等でも容易に縄文土器を採集することができます。さらに発掘調査による事例の増加により、縄文の人々の営みをうかがい知ることが可能になってきました。

特に本市唯一の国指定史跡である「崎山貝塚」は、縄文時代前期（約6,000年前）から後期初頭（約3,500年前）にかけての集落と貝塚の遺跡で、環状溝という土木工事の痕跡も発見され、岩手県沿岸部における縄文遺跡を代表する遺跡といえます。また、ヒスイやアスファルトなどの出土品からは、広域にわたる人との動きが垣間見え、従来の縄文時代の歴史観を塗り替える可能性を秘めた遺跡が数多く見つかっています。

縄文遺跡からみえてくるのは森の恵みと海の恵み、川の恵みを巧みに利用する縄文人の姿であり、自然に対する姿勢は現代の私たちにも受け継がれています。



国指定 崎山貝塚



崎山貝塚出土骨角器



近内中村遺跡出土縄文土器

(3) 鉄と城館による地域の形成

市内の古代鉄生産遺跡は20箇所以上を数え、製鉄・鍛冶に関する遺構が多数見つかっています。本市周辺では奈良時代から平安時代、中世にかけて、たたら製鉄による鉄生産が盛んに行われていたことが分かっています。その理由は、鉄の原料となる砂鉄が採取できたこと、豊かな森林資源により燃料として欠かせない木炭を生産できたことによると考えられています。そのため、蝦夷の権威を示す蔵手刀や戦いに不可欠な鎌・馬具、さらに刀子・斧などの日常生活用具、草刈鎌・穂積具などの鉄製品が遺跡から多数出土しています。

また、遠隔地で生産された須恵器や陶磁器、中国産陶磁器なども出土しており、陸海路を通じて交易が行われ、宮古にもたらされていたことが判明しています。鉄と昆布・塩などの海産物が古代の交易品としては重要であったと考えられます。

鎌倉時代には、閉伊氏が鎌倉幕府の地頭として当地方を治め、根城館に居住したとされています。茂市・腹帯地区の市指定兜鉢3点も、中世土豪の存在を示す重要な文化財です。室町時代には、山口館や千徳城、田鎖館などの大規模な城館の領主が、周辺の城主を従えていたと考えられます。鎌倉時代から戦国時代までの城館跡は71箇所が確認されています。

本市の古代・中世は文献資料がほとんどなく、鉄生産遺跡や城館跡がその時代を紐解く重要な鍵であると言えます。



県指定 長根古墳群出土品



市指定 十八間星兜



千徳城(写真中央の丘陵)

（４）港と街道による地域の発展

北上山地が三陸海岸にのぞむ宮古地方、その発展の原動力となったのは天然の良港と豊富な海産物という海の恵みでした。江戸時代になると、太平洋岸の海運で江戸との交易が可能となり、海産物が江戸へ運ばれました。宮古港（鉾ヶ崎浦）は江戸・松前（北海道）間の寄港地となり、代官所が設置された宮古町と共に、廻船問屋などの大店や蔵、旅籠^{はたご}や船宿、料亭が立ち並ぶ領内一の繁華地となります。

盛岡城下と宮古港を結ぶ北上山地の河川沿いが街道となり、海と山が結ばれることによって木材や鉄も移出されました。物と人が行きかう中で、港町と街道を中心に地域文化が形成されたといえます。幕末維新の戊辰戦争における宮古港海戦も、宮古港が海上交通において重要な港湾であったことを物語っています。

明治以降の港湾の重要性が高まるなかで、閉伊川河口と海岸の埋立てによる築港が行われ、東京・函館をむすぶ三陸汽船が就航しました。戦後も海上交通と遠洋漁業が発達し、本市は岩手県沿岸の中核都市へと発展を遂げていきました。



宮古港



市指定 追分碑



国登録 旧東屋酒造店質蔵

（５）森・川・海の暮らしと祈り

私たちの祖先は、住居をはじめ生産・生活道具のほとんどを樹木や樹皮から生み出してきました。山里の生活は、焼き畑で雑穀を栽培して主食とし、山菜や木の実を利用する知恵と技術を伝承してきました。北上山地の豊富な山林資源は、炭焼きや木材の生産に利用され、近代には鉄道の枕木を産出しました。厳しい山里に生きるため、「結」とよばれる共同作業が行われました。山の神や蚕^{かいこ}神など生産や生活に関わる様々な信仰が生活に溶け込んでいます。

一方、三陸海岸の豊かな漁業資源は、耕地の少ない漁村の半農半漁の生活を支え、アワビや天然ワカメ、コンブ、ウニ等の岸浜漁（磯漁業）が盛んでした。津軽石川の鮭留漁は又兵衛^{またへい}の祭りや伝説を生み、各地に竜神や恵比寿神など大漁と海上安全を願う信仰がみられます。漁業関係者の信仰を集める神社の祭りでは神輿海上渡御が行われ、黒森神楽は沿岸集落の廻村巡業を現在も継続する貴重な無形の民俗文化財です。



国指定 黒森神楽



早池峰山登山道5合目(門馬口)の鳥居



市指定 貫頭式おしらさま木像